

排水性の改善による小豆の安定生産を目指して

京都府内の小豆栽培では、生育期間中の秋雨や台風の大雨による湿害で、収量が低下するという問題があります。

そこで、当センターでは、小豆の安定生産の実現を目指して、「畦間サブソイラ^{けいかん}※」技術の効果について調査しています。畦間サブソイラは従来のサブソイラとは異なり、心土^{しんど}を破碎せず、稲作時の漏水の恐れが少ないため輪作体系で有効であると考えられる新たな農業機器です。

畦間サブソイラは、畝間^{うねま}にナイフ状のつめを突き立て、トラクターでけん引することで耕盤に亀裂が作られるため、表面排水を促し、降雨後に生じる滞水等による過湿状態から適切な水分状態への速やかな移行が期待されます。

この技術が小豆の生育に及ぼす影響を評価するため、当センター所内及び綾部市内の現地ほ場にて、8月下旬に畦間サブソイラを使用しました。今後、土壌水分の推移と小豆の生育・収量との関係性を調査していきます。

※畦間サブソイラ:土壌の表面は耕起せず、硬い耕盤に亀裂を入れて、透水性の改善を図る機器



トラクタで畦間サブソイラをけん引している様子
(右下はけん引跡を横から見た図)

農林センターの施設公開を実施しました

農林センターの業務や農業の魅力、食の大切さを府民の方にお伝えすることを目的として、8月10日(木)に施設公開を実施しました。本年度はコロナ禍以降、4年ぶりに制限なしの開催となり、小中学生の家族連れを中心に約300名が来場しました。

当センター研究員によるほ場見学ツアーやパネルを使用した研究紹介をはじめ、野菜摂取量の測定や様々な種類の土に触れるなど農業に関わる実験コーナー、エダマメの収穫体験など、様々な体験を通して農業を身近に感じてもらいました。

参加者からは、「いろいろ体験ができて面白かった」、「農林センターがどのような仕事をしているのか知ることができた」、「来年も実施してください」と多くの感想があり、たいへん好評でした。



ほ場見学ツアーの様子



研究紹介コーナーの様子



実験コーナーの様子



エダマメ収穫体験の様子

漆を使った草木染体験会を開催

当センターでは、府民に向けて地域特産の丹波漆や緑化センターの取組への理解を深めていただくために漆を使った草木染め体験会を8月5日(土)に開催し、親子連れなど午前の部と午後の部で合わせて約20名の参加がありました。

体験会で参加者は、染色作業の合間に、文化財の修理に必要な国産漆が不足している丹波漆の復興が大事であることや漆の木をチップにして煮だして染色に用いることで漆かき[※]の後の枯れた漆の木の有効活用になることなども学びました。

この取組は、NPO 法人丹波漆の協力を得て、石川県能登の染色家・新谷夫妻を講師に招き、平成30年から毎年実施しているものです。当センターでは、今後も日本の伝統文化を支える丹波漆の生産振興につながる試験研究の成果や関係する取組の実施など情報発信していきます。

※漆かき:漆の木に傷を入れて漆の樹液を掻き採る作業



午前の部(初心者コース)・染め上がったバンダナ
(用いる触媒により色合いが異なる)



午後の部(経験者コース)・新谷夫妻から説明
(漆染を始めた経緯や様々な染色技術について)

早生青ナシ「丹後2号」(仮称)の収穫が始まりました

当所では、京都府独自のナシ品種の育成を目指し、優良品種の交配※を行ってきました。これらの中から、需要期である盆前収穫が可能な早生の青ナシ系統を選抜し、「丹後2号」と仮称し、特性調査を行っています。

8月4日(金)には、重さ350~400g程度、糖度12度程度の果実が収穫できました。「二十世紀」のような黄緑色の果皮ですが、アザが少なく「二十世紀」よりきれいに仕上がることが特徴です。また、「二十世紀」と異なり、酸味がほぼ感じられず、甘さが際立った味わいとなっています。

今後、関係機関と協力し、京都府で初めてとなる果樹のオリジナル品種として、品種登録を目指していきます。

※交配:種子を得るために、雌しべに花粉を受粉させること



収穫直後の「丹後2号」の果実(左:440g、右330g)

施設公開を開催

8月24日(木)、「丹後の農にふれ、食を味わおう!!」をテーマに、施設公開を開催しましたところ、およそ200名の参加がありました。

当日は、研究成果ポスター展示などで当所の業務を紹介しました。また民間企業の協力のもと、参加者はハンティングドローンの実演や自動運転トラクターの試乗、アシストスーツの装着体験などスマート農業を体感しました。このほか、海洋センター、畜産センター碓高原牧場、丹後農業改良普及センター、織物・機械金属振興センター、丹後保健所、清新高校他から研究や業務を見聞し、丹後産のソーセージやスイーツ、ソバなどの加工品や、キッチンカーのハンバーガーなどの丹後の味覚を味わいました。

参加者からは、「おいしいものがたくさん買えてよかったです」、「初めてきたのですが、がいろんな体験ができたので楽しかったです」、「地域でいろんなことをしているのだと改めて感じました」との声をいただきました。



ハンティングドローンの実演



「見る・聞く」、「ふれる」コーナーの様子

「見て 食べて 新しい京野菜を知ろう」をテーマに 施設公開を開催

当センターの研究内容及び施設について、府民の理解促進を図るため、8月18日（金）に施設公開を開催したところ、子供連れの家族を中心に、32名の参加がありました。

当日は、黒ダイズエダマメ及びトウガラシ新品種の試食体験、野菜を使った実験、セミナー、施設見学を行いました。参加者からは「品種による味の違いがよく分かった」、「家庭にあるもので出来る実験が面白かった」、「様々な野菜の品種が、センターで時間をかけて生まれたことを知り、愛着が湧いた」などの声が聞かれました。

来年度以降も当センターでは、施設公開を通じて最新の研究内容や京都府の農業について情報発信を行います。



品種を食べ比べる試食体験の様子



野菜を使った実験の様子

南陽高校の実習とセンター見学を実施しました

8 月 2 日(水)に、南陽高校「夏季実習プログラム・生命科学実習」に伴い、教諭 2 名、高校 1 年生 6 名が当センターを来訪しました。参加者は研究所の説明を受けた後、室内実験施設や屋外ほ場、顕微鏡観察の実演を見学しました。

参加者からは「京野菜の栽培現場を見られて良かった」「センターでの具体的な取り組みが分かった」等の意見が出されました。

今後も、引き続き若い世代が府の農業課題や生物の観察技術に関心をもってもらうために、連携教育を続けていきます。



ほ場見学の様子



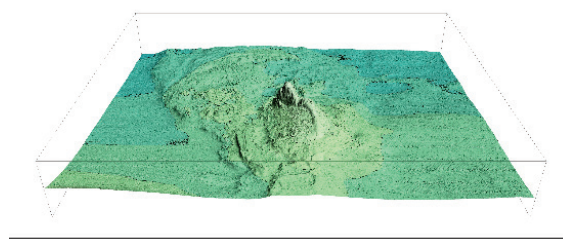
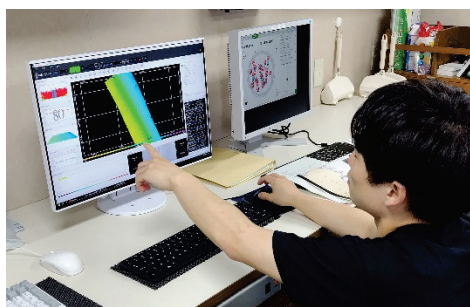
電子顕微鏡の操作体験

海底地形調査を実施

海洋センターでは急潮^{きゅうちよう}※による定置網の漁具被害を防止するため、急潮発生
の予測精度の向上を目指しており、本年度から沿岸海域に特化した新たな海況予測モ
デルを開発中です。

同モデルを構築する重要因子の1つに海底地形情報がありますが、これまでに府
沿岸では詳細な調査が行われていませんでした。そこで、海洋調査船「平安丸」に新
たに搭載された海底地形探査装置を使って、今年度から新たなモデルに欠かせない
定置網漁場周辺および沖合の海底地形情報の調査に取り組むこととし、令和5年7
月10～11日に第一回目となる調査を行いました。同日の調査結果は、現在解析中
ですが、今後もより精度の高い海況予測モデルの完成に向けて様々な調査を行って
いきます。

※ 急潮:流速1ノット(約50cm/秒)を超える流速を急潮と定義



海底地形調査(左:調査中の船内PC、右:海底地形の3D解析図)